

平成29年度 徳島県立名西高等学校経営計画

1 学校教育目標

- 1 本校の歴史と伝統を重んじ、知・徳・体の調和がとれた、誠実で民主的・創造的な実践力のある心身ともにたくましい人間を育成する。
- 2 生徒一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばすとともに、個人の尊厳と基本的人権を尊重し、民主社会の実現に貢献できる人間を育成する。
- 3 我が国の文化と伝統を尊重するとともに、平和な国際社会づくりに貢献できる人材を育成する。

2 学校経営計画中期的目標

- 1 真に自分を大切にする教育の徹底により、正しい人権感覚を身につけるとともに、自己実現への意欲や態度を養う。
- 2 芸術科の充実及び国際理解教育の推進を図り、文化の創造と社会の発展に貢献できる人材を育成する。

3 本年度重点目標

- ① 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の充実
- ② 自他を大切にする心や態度を育成
- ③ 社会的自立のために必要な能力や態度の育成
- ④ 基礎的・基本的な学力の育成
- ⑤ 活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成
- ⑥ 地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進
- ⑦ 文化芸術活動における地域への積極的な創造発信
- ⑧ 防災・安全教育の徹底と環境教育の推進

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見
基本的 生活習慣の 確立を図る 生徒指導の 充実	①基本的な生活週間の確立を図る生徒指導の充実	生徒指導課 各学年	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B
			① 遅刻者数を20%減少させることができたか。(昨年度808人)	① 毎日の立哨指導や遅刻カードによる指導など様々な取組の効果もあり、遅刻者数は12月末までで588名で、昨年度の同時期(636名)と比較し、約8%減少したが目標は達成できなかった。	
			② スマホマナーアップ運動を充実させ、スマホが原因による特別指導を0にすることができたか。(昨年度も0)	② スマホによる特別指導は1件であったが、携帯電話安全教室など様々な取組の効果もあり、いじめ等の深刻な事案ではなかった。	
		③ 交通事故防止と交通マナー向上の指導を徹底させ、登下校における交通事故を3件以内にできたか。(昨年度は4件)	③ 大きな事故はなかったが、登下校中の接触事故は2件あった。いずれも軽傷程度であった。		
		生徒指導課 各学年	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 様々な取り組みの効果もあり、昨年度より遅刻者数や交通事故数が減少するなど、一定の成果は得られた。またスマホの指導についても、スマホマナーアップ運動を生徒会・PTAと連携して推進するなど独自の取組を実施することができた。しかし、遅刻者数とスマホの指導の目標を達成することができなかったため、さらに指導方法等の工夫改善を図りたい。
			① 「遅刻ゼロの日」や「考査時の5分前登校」の取組を充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個に応じた指導を実施した。また、遅刻ゼロの日の前日には、生活委員が校門前で呼びかけるなどの取組や考査時は5分前登校も実施した。	
② クリアファイルの配布やポスター掲示など啓発に努める。また、生徒会やPTAと連携を図る。	② クリアファイルの配布やポスター掲示をして、スマホマナーアップ運動の浸透に努めた。また、生徒会やPTAも総会で宣言を発表し、運動の推進が図れた。				
③ 登校時の立哨指導(毎日)、街頭指導(月1回)、石井署による交通安全講話(年1回)、交通安全街頭キャンペーン(年2回)、車体検査と通学別集会(年3回)、交通委員会による挨拶運動(月1回)を実施する。	③ 石井署と連携を図り、交通安全講演会の開催、交通安全街頭キャンペーン(無事カエル配布)などを実施した。また登校時の街頭指導は毎日実施し、毎月の学校安全の日にも通学指導を実施した。3年生に対しては自動車免許取得説明会も開催した。				

		自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	人権教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) 教育活動全体を 通じて人権意識 の涵養につと め、各学年・ク ラスの生徒の実 態に応じて指導 の充実を図るこ とができた。ま た、地域との連 携では、ハンセ ン病にかかわる 人権課題につい て活動されてい る阿波市民劇団 「千の舞い」座 による人権劇公 演を実現するこ とができた。	以前の本校には 人権教育に関す る部活動が有 り、例えばハン セン病患者さん に直接会って話 を伺い、学習を 深めたり交流を 持つ機会を設け たりしていた。 現在の本校でも 同好会として活 動しているとの ことだが、次年 度の高人研大会 の研究指定を受 けて、活動拠点 となる部屋が校 内に欲しいとの 要望があると聞 く。可能な限り 実現させて欲し い。また、研究 指定を、生徒達 が人権問題に対 する意識を高め る絶好のチャン スとして十分に 生かして欲し い。生徒達が将 来にわたって人 権問題を解決し ようとする態度 を育成するため の入り口となる であろう。	○次年度も継続 して本年度取組 を推進すると もに、県教委に よる人権教育指 定研究校に次年 度から2年間指 定を受けること から、さらなる 人権教育実践に つとめていき たい。また、本 校には人権教育 推進の拠点とな る人権教室がな いので早期設置 を求めると共に 、生徒自主活動 の普遍的活動継 続のため、人権 社会研究会の同 好会から部への 昇格を求めてい きたい。
			① いじめ問題や人権に関する課題について教職員間で共通認識が持てたか。	① 校内教職員人権教育研修会や職員会議を通して、共に考えることで共通認識を持つことができた。			
			② 生徒による人権意識を高める活動を推進することができたか。	② 「名高人權の日」校内放送や人権標語のクラス掲示、生徒会人権委員会活動を通じて推進できた。			
		③ 3年生対象の「人権に関する意識調査」において、人権課題に取り組む意欲を示す回答を89%以上にする。(H28年:89%)	③ 「意欲的に取り組んだ」、「ある程度取り組んだ」を合わせて92%の回答を得られ、昨年度より人権問題解決に向けての意欲が高まった。				
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① 学年検討会や人権教育研修会を開催したり、校外の研修会に参加して職員会議等の機会にその報告を行ったりする。	① 人権HR活動の事前検討会を各学年で必ず実施し、校内教職員人権教育研修会は2回実施した。校外研修報告は職員会議でその都度行った。				
人権教育課	② 生徒会の人権委員会による人権に関する取り組みを行う。	② 文化祭人権展の実施、「名高人權の日」校内放送、人権新聞発行等を通して人権啓発に取り組んだ。					
	③ 人権や人格を尊重し、いじめや差別を許さない生徒の意識や態度を育てる人権HR活動や人権映画鑑賞会等を行う。	③ 人権HR活動を年5回実施した。第3回は人権映画学習会を、第4回は人権劇鑑賞会を実施し、いじめや差別を許さない人権意識を高めた。					
	評価指標	評価指標の達成度					
生徒指導課 教育相談	④ 学校いじめ防止方針に基づき未然防止に努め、いじめによる特別指導を0にする。(昨年度も0)	④ 年度当初の職員会議で共通理解を図り、いじめ防止に全教職員が取り組み、いじめによる特別指導は0であった。					
	⑤ 必要に応じた職員研修やケース会議が実施できたか。	⑤ 生徒の実態調査を基に、情報共有のための職員研修を行った。また、必要に応じて、教科担任会などのケース会を行った。					
生徒指導課 教育相談	活動計画	活動計画の実施状況					
	④ アンケートを年2回実施し、早期発見に努める。また、いじめは絶対に許さないという姿勢を全校集会等で明確にし、生徒が相談しやすい環境をつくる。	④ 本校の実態にあった年間計画を作成し、アンケート調査(年2回)や個別面談などの取組を行うことで生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、未然防止に努めた。					
⑤ 特別支援教育の視点で、生徒実態調査を、年1回行い、その結果を教職員研修会で情報共有する。支援が必要な生徒については、年間2回以上ケース会を行う。	⑤ 生徒実態調査を6月に行い、7月に情報共有のための職員研修を行った。支援が必要な生徒についての保護者面談、教科担任会など2回以上行うことができた。						

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	保健厚生課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 学校医という専門的な立場からの健康相談をより生徒に周知できるように努めたい。	学校医の助言の元に健康相談を行えたとのことである。生徒の多様化や、様々な問題の複雑化が進んでいる現在において大変重要である。今後ともぜひ続けて実施して欲しい。
			⑥ 生徒の心身の健康問題について担任、保護者や必要に応じて専門の相談機関等と連携して健康相談活動を行うことができたか。	⑥ 担任、必要に応じて保護者や専門の相談機関と情報交換を行いながら健康相談活動を行うことができた。		
		⑦ 毎学期1回以上学校医による健康相談を実施し、生徒の健康の保持増進に努めることができたか。	⑦ 毎学期1回、学校医による健康相談を実施、専門的な立場から助言を受け、健康問題の解決に努めることができた。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
	保健厚生課	⑥ 保健室の機能を生かしながら担任、保護者と連携を図る。必要な場合はサポートセンター等専門の相談機関につなげる。	⑥ 担任や関係職員と連携し、生徒の心身の健康問題の早期発見や対応に努めた。必要な場合は学校医や専門機関と連携し、支援を行った。			
	⑦ 毎学期1回以上学校医による健康相談を実施する。	⑦ 一学期は女子2名、二学期は女子1名を対象に健康相談を実施し、学校医の助言のもと、健康問題の解決につなげた。				
②自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	保健厚生課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 二次検診が必要な生徒が全員受診につながるよう、さらに個別の指導を徹底させていくことが課題である。	特になし
			⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了することができたか。	⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診を完了させることができたが、二次検診は内科検診が1名完了できていない。		
		⑨ ほけんだよりを毎月発行できたか。健康や性に関する講演会を年1回以上実施することができたか。	⑨ 保健だよりをほぼ毎月発行し、健康問題について啓発できた。講演会は学校医を講師に招き、年1回以上開催することができた。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
	保健厚生課	⑧ 健康診断の結果、未受診者や二次検査が必要な生徒に対して受診指示を周知徹底する。	⑧ 二次検診が必要な生徒への個別指導に努めた。			
	⑨ ほけんだよりの毎月発行を実施する。健康や性に関する講演会を年1回以上実施する。	⑨ 1学年を対象に性教育講演会を開催した。学校祭では学校歯科医に來校いただき歯科相談を実施した。30人近くの希望者に相談会を実施した。				

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
	②自他を大切に する心や態度を 育成	特別活動課	評価指標 ⑩ 「あいさつ運動」を毎週2回以上実施できたか。	評価指標の達成度 ⑩ 「あいさつ運動」を週2回実施できた。	総合評価 (評定) A (所見) 生徒会だけでなく、委員会活動、部活動などにも広がってきた。	特になし ○さらに多くの委員会活動や部活動と連携協力して実施していく。
		特別活動課	活動計画 ⑩ 生徒会役員が中心となり、登校時に「あいさつ運動」を実施する。	活動計画の実施状況 ⑩ 生徒会役員が火・金曜日の登校時に校門前で朝のあいさつ運動を実施した。生活委員会や交通委員会、野球部も挨拶運動を実施した。		

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
社会的自立のために必要な能力や態度の育成	③社会的自立のために必要な能力や態度の育成	総合学習科	<p>評価指標</p> <p>① 進路意識を高める行事や講演会等に主体的に参加する生徒の割合を80%以上とすることを目指す。</p> <p>② 各学年での小論文に関する取り組みに対して、アンケートによる生徒の満足度を80%以上とすることを旨す。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 学校評価アンケートで、進路意識を高める行事や講演会等に対して、主体的に参加した生徒の割合は、72.0%であった。</p> <p>② 小論文の取り組みに対する生徒の満足度は、75.0%から81.6%と幅があった。取り組み意識は3年生が最も高く、アンケートによる生徒の満足度も、81.6%と目標を達成できた。</p>	総合評価 (評定) B	進路意識を高める行事や講演会等に対して主体的に参加したと答えた生徒の割合が目標値より少ないのは、全校集会の性格上受け身にならざるを得ないことが理由とのことだが、キャリア教育等においては生徒が主体的に取り組むことが特に重要である。講演会の効果もあるが、できれば生徒が主体的に参加できるような学習活動も進めて欲しい。また、国公立大学への合格者数が全てでは無いが、高い目標を持って積極的に努力する生徒を育てて欲しい。
		総合学習科	<p>活動計画</p> <p>① 総合的な学習の時間の計画において、生徒の実態に応じて進路意識を高める行事や講演会等の内容の改善を図り、生徒が主体的に参加することができるようにする。</p> <p>② 小論文に関する取り組みを、全学年の年間計画に位置づける。各ホームルームでの事前指導を経て、小論文模試を実施し、事後指導の後、アンケートで生徒の満足度を確認する。1・3年生では、事前指導の中で講演会も実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 学習を通して考えたことを書いてまとめたり、それを活かした面談等を重ねたりすることにより、自らの見つけ直しを促し進路実現への意識づけを行うことができた。</p> <p>② 学年担当を中心として、生徒の実態に応じた事前指導、小論文模試の実施、添削をもとにした事後指導を計画的に行った。講演会では、学年団の意見をまとめ、内容について講師とのやりとりを重ねた結果、生徒からも好評を得た。</p>	(所見) 進路意識を高める行事や講演会等を通して、生徒がこれからの学習活動や、ものの考え方、捉え方について考える機会となった。個人差は大きい、取り組みから受けた刺激が、その後の進路に対する主体的な姿勢や、取り組みに対する満足度につながった。	
	進路指導課	<p>評価指標</p> <p>③ 生徒に進路情報を随時提供することができたか。</p> <p>④ 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上であったか。(H28:95%, 90%)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>③ 進学希望、就職希望の両方に対応できるように、取捨選択しながら様々な情報の掲示や伝達を随時行った。</p> <p>④ 最終進路先に満足する生徒の割合が93%、進路指導に満足する生徒の割合は95%で、いずれも目標を達成した。</p>	総合評価 (評定) A	○3年生の最終進路先に満足する生徒の割合、進路指導に満足する割合は目標を達成できたが、それにおおらず、今後も生徒の進路希望が達成できるように個々に応じて対応していきたい。	
	進路指導課	<p>活動計画</p> <p>③ 生徒に進路情報を随時提供する。(「木鐸」年1回、職場体験やオープンキャンパス等各種案内随時)</p> <p>④ 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>③ 「木鐸」や進路ニュースの発行を通して本校独自の情報を伝えた。また、掲示や配布により様々な進路情報を提供した。業者による校内での資料頒布会を行った。</p> <p>④ 進路指導室や就職指導室を活用して、できるだけじっくり話を聞きながら進路相談に応じた。</p>	(所見) 情報の提供については配布時期や配布対象など計画通りに行えた。アンケート結果も目標が達成できた。		
	3学年共通	<p>評価指標</p> <p>⑤ 生徒と担任、学年団との面談を実施し、個別指導ができたか。</p> <p>⑥ 進路に関する講演会や学年集会を通して学力向上への意欲や望ましい職業観の確立を図ることができたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑤ 1. 2年担任はコース選択等について、熱心に面談した。3年担任は生徒の進路実現のため面談を頻繁に行い、面接指導等についても丁寧に指導した。</p> <p>⑥ 2月に実施した進路希望調査において進路が未定である生徒は1・2年生ともに0%であったので、講演会やHRなどでの進路指導の成果が出ていると考えられる。</p>	総合評価 (評定) A	○早い時期から進路についての意識付けを行い、生徒自身で興味を持って学校や職業について調べるように、HRや面談を行う必要があると思う。	
	3学年共通	<p>活動計画</p> <p>⑤ 全生徒と4回以上進路や学習、生活面についての面談をする。</p> <p>⑥ 講演会や学年集会を各学年3回以上開催する。(H28:1年生5回、2年生4回、3年生4回)</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑤ 昼休みや放課後を利用し面談していた。ほぼ全学年で実施できた。</p> <p>⑥ 年度当初と進路については各学年で集会を行った。その他、1年は保健指導・2年は修学旅行・3年は年金セミナーなど実施した。(H29:1年5回、2年5回、3年6回)</p>	(所見) 進路説明会等では生徒が進路を自分のものとして考えられていた。また、3年生においてはほぼ生徒全員の進路が決定したので効果はあったと思う。		

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針		
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	教務課 進路指導課	<p>評価指標</p> <p>① 定期考査期間中の平均家庭学習時間2時間以上の者が30%以上、かつゼロ時間の者がゼロであったか。 (H28:2時間以上の者の割合は34%、ゼロ時間の者の割合は2%)</p> <p>② 成績不振数の割合を、前年度1・2学期と比較して、減少させる。</p> <p>③ 成績不振者に対して、休業中に基礎学力補充講座を行う。出席率を80%以上にする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 学習時間2時間以上の者の割合は39%、学習時間ゼロ時間の者の割合は1%であった。</p> <p>② 欠点取得者数について、1学期は前年比較で増加した。2学期は前年比較で半減した。本年度は、1学期よりも2学期が半減した。</p> <p>③ 1学期は欠席者1名、2学期は欠席者1名で、遅刻等もあったが、それぞれの課題を仕上げた。出席率は95%以上である。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 教務課においては、本年度より、欠点取得者特別補講にかわり、夏季休業中と冬季休業中に1科目につき1時間×5日間、基礎学力補充講座を実施した。ほぼ全員が、5日間、課題等に取り組むことができた。また、考査前には学習計画表などを配付し、学習への動機付けを行った。今後とも、進路指導課と協力して学力の向上に努めたい。学習時間0時間の者はゼロにはなっておらず目標が達成できなかったが昨年度よりは減少しており、今後も継続的な取り組みを続けたい。また、STについては、意欲的に、目標を持って生徒が取り組むための方策を講じていきたい。</p>	<p>朝の自主的な読書や学習のために、SHRの前の10分を当てているとのこと。以前は読書のみであったが、3年前から学び直しや基礎学力向上のために、読書と学習の両方を行っているとのこと。短時間ではあるが、毎日積み重ねることによって学習効果が上がる。また、読書や学習への主体的な取り組み意欲を向上させるためにも有効である。ぜひ継続して欲しい。</p> <p>○生徒への学習への動機付けの方策の検討</p> <p>○基礎学力補充講座のあり方の検討</p> <p>○目標を持って、意欲的に生徒がSTに取り組む環境作り。</p>	
			教務課	<p>④ 授業時数確保に努め、出張・年休の授業振り替え率を90%以上にする。(平成28年度96%)</p>			<p>④ 出張・年休による授業振り替え率は、1・2学期で96%であり、極力自習の時間を減らすことができた。</p>
			進路指導課	<p>⑤ 基礎基本の徹底を目標としたステップアップトレーニング(ST)の実施回数を可能な限り確保する。(H28 1年生:国(18),英(17),数(18) 2年生:国(18),英(18),数(19))</p> <p>⑥ 家庭学習時間を確保させるために、各教科でSTの実施曜日にあわせた家庭での課題を計画的に実施する。</p>			<p>⑤ 1年生で国語18回、英語17回、数学15回、2年生で国語17回、英語18回、数学15回を実施した。</p> <p>⑥ STの実施にあわせてあらかじめ課題プリントを配布するなど、各教科において家庭学習時間確保に取り組んだ。</p>
		教務課 進路指導課	<p>活動計画</p> <p>① 学習時間調査を実施し、生徒に対する意識づけを行い家庭学習時間ゼロをなくす。</p> <p>② 欠点を取らないよう、授業やホームルーム、集会等で学習意欲を喚起させ、授業態度や提出物等の指導をより徹底する。</p> <p>③ 長期休業中に基礎学力補充講座を実施し、復習課題を課し、学力補充に努めさせる。課題不備等のないように指導する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 考査時間割発表から学習時間調査を実施し、計画的に学習ができるように学習時間表を配布し、担任の先生方にチェックと状況把握をしていただいた。</p> <p>② 全校集会などでは、進路指導主事や教務主任から学習方法や単位修得や未習得について等話す機会を持った。また、HR担任や教科担任に対し、提出物の期限を守らせることや、授業態度の指導などを徹底していただいた。</p> <p>③ 欠点取得者に、1科目につき、1時間×5日の基礎学力補充講座を行った。それぞれ個々に出された課題に取り組み、欠点解消に努めた。</p>			
		教務課	<p>④ 行事などの精選を図るとともに、自習を減らし、授業振り替えをする。</p>	<p>④ 振り替えによる自習は5%を切り、高い数字で授業を実施した。</p>			
		進路指導課	<p>⑤ 年間行事計画に位置づけ、英語、国語、数学のSTを毎週水木金の朝に実施する。</p> <p>⑥ 1、2年生におけるSTの課題、全学年における各教科の授業の課題を計画的、継続的に実施する。</p>	<p>⑤ 行事計画書にテスト期間等を除き、可能な限り組み込んだ。行事の関係で実施できなかったり曜日の関係で実施回数が教科によって差があるが出たのは改善点である。</p> <p>⑥ STの課題はSTの実施日にあわせて、授業補充の課題は週末を中心に課し、各教科における対応の中で提出物をこまめにチェックするなどして家庭学習の定着と基礎学力の向上を目指した。</p>			

		自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	国語科	評価指標 ⑦ 漢字・語彙テストや古文単語テストの平均得点率7割以上の者を82%以上にする。(平成28年度80%) ⑧ 授業評価アンケートの「教科に関する興味・関心」「充実度」がある生徒の割合80%以上を目指す。 ⑨ 授業評価アンケートの「宿題をしている」生徒の割合を82%以上にする。(平成28年度80%)	評価指標の達成度 ⑦ 平均得点率7割以上の者は82%であったが、クラスや学年によって差があった。 ⑧ 教科に関する興味・関心や充実度は92%と高かった。 ⑨ 宿題をしている割合は85%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 真面目に学習に取り組む、学力がついてきている生徒もいるが、その場しのぎの学習に終わっている生徒もいる。やっぴよよかった、おもしろいという体験をさせたいと思いい授業をしているのだが、なかなか思うようにはいかなかった。しかし、協働学習等では意欲的に取り組んでいる様子も見られた。	授業の課題の提出については、提出そのものが目的となっている者もいるとのこと。それでは学習効果も期待できないので、生徒が興味を持って主体的に取り組めるように工夫をして欲しい。 ○家庭学習を定着させるための課題等が、提出さえすれば良いものになってしまっている生徒に対して、興味・関心を持って取り組めるよう課題等を工夫し、確かな学力を育成していく。また、協働学習等、充実感や達成感が味わえる機会を授業に取り入れていきたい。	
		国語科	活動計画 ⑦ 漢字テキストを家庭学習させ、週に1回確認テストを実施する。2、3年生は古文単語テストも実施し、合格しなかった者には繰り返し取り組ませる。 ⑧ 協働学習や発表により達成感や充実感を味わわせる。便覧・資料等を活用してより深く興味・関心を引き起こし、積極的な授業参加ができるよう配慮していく。 ⑨ 授業の内容にあったプリントや週末課題を配付し、家庭学習の習慣を身につけさせる。プリントや週末課題はファイルし、提出させて評価する。	活動計画の実施状況 ⑦ 週1回のペースで確認テストを実施した。間違えたところはやり直しをさせて、合格するまで指導し、漢字・古文単語力の定着に努めた。 ⑧ 分担を決め、グループで調査・研究をして発表の機会をもった。また、個人でも発表の機会を設け、相互評価し合って成果を振り返った。 ⑨ 週末課題や予習プリントに取り組ませた。適宜、提出させて評価し、平常点に加味した。中には答えを写すだけの生徒もおり、積極的に学習するというより提出することだけに囚われているようであった。			
		地歴・公民科	評価指標 ⑩ 授業評価の「興味・関心」「充実度」で、8割以上の生徒が満足することで、基礎的・基本的な学力の育成をはかる。(平成28年度85%) ⑪ 基礎的・基本的な用語を身につけさせるために、小单元ごとの小テストを実施する。小テストの正答率を7割以上にする。(平成28年度70%)	評価指標の達成度 ⑩ 「興味・関心」「充実度」について、85%の生徒が満足していた。 ⑪ 3年生・2年生の日本史Bの小テストの正答率は75%を超えた。			総合評価 (評定) B (所見) 授業の導入や関連している単元の時事的な内容を取り上げることで、社会に対する生徒の興味・関心を持たせることができた。小テストを授業の中に取り入れることにより、少しずつ覚えるという習慣がついてきたように感じる。
		地歴・公民科	活動計画 ⑩ 毎時間一つは時事問題を取り入れ、授業内容と絡めて説明することにより、授業が世の中の出来事・動きと関連していることに気づかせ、興味・関心を持たせる。 ⑪ 小テスト前に、覚える時間をとったり、選択肢をつけたり、取り組みやすいように工夫する。定期テストと関連付け、学習意欲を高める。	活動計画の実施状況 ⑩ 毎時間、前回の授業から今回の授業までの時事問題を紹介し、解説した。時事問題に関して発問する生徒も少しではあるが増えている。 ⑪ 小テスト前に一問一答形式で発問したり、少しずつ覚えるようにした。定期テスト前に小テストを使って学習する生徒も多かった。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	数学科	<p>評価指標</p> <p>⑫ 1, 2年生のSTにおける正答率を70%以上にする。(H28の平均正答率(得点率)は1年生65%, 2年生59%)</p> <p>⑬ 授業評価アンケートで数学の授業に興味・関心を持った生徒の割合を80%以上にする。(H28 1年生75%, 2年生69%)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑫ 科やクラス間で差があり、目標を達成できた回とそうでない回がある。平均正答率(得点率)は1年生71%, 2年生56%であった。</p> <p>⑬ 興味・関心を持った生徒の割合は1年生84%, 2年生75%であった。全体的に授業には真面目に取り組んでおり、授業への意識を高めることはできた。</p>	総合評価 (評定) B (所見) STへの取り組み方や意欲のばらつきが個人間で見られる。低得点の者が固定してしまっている。課題への取り組み方を向上させる指導を強化したい。できるという体験を増やすことによって、興味・関心も向上することにつながる。	教科によっては、理解力や学力の個人差が大きく、指導に苦慮しているとのこと。これには、生徒の出身地の分布も一部影響しているのでは無いかとのこと。近年は地元出身者の割合が多くなっているとのことで、地元中学校との連携も必要と思われる。現在も地元との連携を図るよう努力されているが、今後も十分な連携を意識し、地元の本校に対する意識の改革に努めて欲しい。
			<p>活動計画</p> <p>⑫ STの課題を週末に配布し、家庭で学習してから金曜日の朝のテストを受ける流れを確立させる。</p> <p>⑬ 毎時の目標を明確に示すとともに発問を多くしたり、協働学習を取り入れるなど、全員が授業に積極的に取り組んでいる態勢をつくる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑫ 課題への真剣な対応や提出を促すことにより、学力向上に努めてが答えを写すだけで終わって得点に結びついていない生徒への対応が不十分であった。</p> <p>⑬ 協働学習を2年生にも広げて実施した。生徒同士が教え合ったり聞き合ったりすることで意欲はあがったと思う。またプリント学習も定着してきている。</p>		
		理科	<p>評価指標</p> <p>⑭ ノート、プリント、課題、テスト直し等の提出・確認を細かく行い、その提出率を95%以上にする。</p> <p>⑮ 社会で取り上げられる理科関連のニュースを授業で取り上げることで、学習内容が現実社会と密接に関連していることを理解させ、学習意欲の向上に繋げる。</p> <p>⑯ 生徒がやる気を持って試験に臨み、満足できる得点がとれるためのサポートを、必要に応じて考査前に行う。また、欠点取得者をゼロにする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑭ 授業中に課題やノートの点検をこまめに行うことで目標提出率にほぼ近い数値を達成することが出来た。</p> <p>⑮ 天候などの身近な自然現象や最新の科学技術、防災技術などについて十分に紹介できた。</p> <p>⑯ テスト範囲の明示や出題ポイントの解説、テスト前の小テスト等でサポートをしたが、欠点取得者ゼロについては達成できなかった。</p>	総合評価 (評定) B (所見) 科学的なものの見方について慣れていない生徒への最新の科学内容の紹介は有効であったと考える。これを今学習している事へ結びづけることの難しさを感じた。テスト前の学習については努力する生徒が増加しているように感じられるが、日常の学習に繋がる工夫が必要と考える。学習内容がこれからの生活にどう結びつくかをさらに推し進め、自主的な学習活動へと推し進めたい。	
			<p>活動計画</p> <p>⑭ 一般用語、一般常識の理解定着を目指すためのきめ細かい指導と解説を行う。必要であれば小テストを行い定着率を確認する。ノートを効率よくとれるよう板書計画を吟味する。解説と板書が重なり、わかりにくくならないよう工夫する。</p> <p>⑮ ニュース・新聞等の記事から授業内容に即する内容についてプリント等を作成する。記事中の単語、内容の解説を行い、基礎的な科学的知識の習得に努める。月1回以上の取り組みを目指す。</p> <p>⑯ 生徒が試験勉強に取り組みやすいよう、出題範囲と出題傾向を適切に伝え、効率良い勉強方法を伝授するとともに、学習努力が得点に繋がる出題を心掛ける。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑭ 学習内容の理解度を上げるため、中学校内容の確認、必要に応じての復習等を行った。板書計画と振り返り学習の連動については協議を行い実施できたと考える。</p> <p>⑮ 自然災害や最新の科学技術などについての紹介を行ったが、それらの解説について十分に理解させるための時間を確保する事が難しいと解った。</p> <p>⑯ 課題の確認や内容の定着を図るための小テストの実施などのこまめな実施により欠点所得者の減少には繋がったと考える。テスト前だけでなく、通常の学習時間に繋ぐ工夫も必要である。</p>		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	英語科	<p>評価指標</p> <p>⑰ 1年生のSTの平均得点率6割以上の者を30%以上にする。(H28:26%)</p> <p>⑱ 2年生のSTの平均得点率6割以上の者を30%以上にする。(H28:21%)</p> <p>⑲ 3年生の1, 2学期末で80点以上(評定5)の生徒を40人以上にする。(H28: 1学期41名, 2学期27名)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑰ STの平均得点率6割以上の者は44%で、目標を達成できた。</p> <p>⑱ STの平均得点率6割以上の者は12%で、目標を大きく下回った。</p> <p>⑲ 全クラス実施のコミュニケーション英語で、80点以上の生徒は、1学期42名、2学期40名で、目標を達成できた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>週末課題やSTは年度当初に内容を検討し、生徒の学習習慣の定着や学習意欲の向上につながるよう計画した。しかし、回が進むにつれ内容が難しくなり、徐々に得点が低くなった生徒が多く見られた。自主学習のスタイルでは定着が難しく、授業で取り扱う機会をもっと増やす必要がある。3年生は、進路決定が目前であったため、小テストにも意欲的に取り組み、成績を伸ばした。</p>	<p>朝の学習では実力テストの範囲を取り組ませているとのこと。生徒が学習によって達成感を感じることができるよう配慮されていて良い。今後も改良を加えながら継続して欲しい。</p> <p>○全学年を通して、定期考査の勉強に熱心に取り組む生徒は多いが、日々こつこつと基礎・基本の定着を図ろうとする生徒はクラスや個人によって差がある。今後は定期考査におけるSTの確認テスト出題の割合を増やしたり、ほとんど勉強せずにSTの確認テストを受ける生徒がなくなるよう、見やすいワークシート作りを心がけ、少しでも取り組む意欲を育みたい。また、2年生はSTの出題方法と内容を見直す必要がある。</p>
			<p>活動計画</p> <p>⑰ 「English for Tomorrow」(中学校復習教材)を週末課題とし、計画的に取り組みせる。また、自主学習を促す。 ・STにより基礎・基本の定着をはかる。 ・結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。</p> <p>⑱ ・STの課題プリントを週末課題とし、自主学習を促す。 ・授業でポイントを確認し復習させる。 ・STにより基礎・基本の定着をはかる。 ・STの結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。</p> <p>⑲ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・繰り返し暗唱・復習することを奨励する。 ・小テストの結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑰ 「English for Tomorrow」を週末課題とし、年間を通して計画的に取り組みさせた。また、実力テストの範囲とすることで、目的を持って取り組むことができた。STの結果には個人差があるが、全体的に真面目な取り組みが見られた。結果は評価の一部に加味し、成績の悪い生徒は個人指導を行った。</p> <p>⑱ STの授業・週末課題・確認テストのサイクルは生徒に定着したが、テストに向けて主体的に取り組ませることが困難で、解答を写すだけの生徒が目立った。そのため、再テストを行った。一部定期考査の範囲に入れ復習させることで定着を図った。結果は評価の一部に加味した。</p> <p>⑲ 3年生の授業では、重要なポイントの解説や単語・熟語の小テストなど、基礎・基本の充実を図り、結果は評価の一部に加味した。ペアやグループ活動など、生徒同士で学び合う活動も積極的に取り入れた。</p>		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	図書課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 図書館の1日平均利用人数、貸出冊数とも減少しているが、家庭での平均読書時間10分以上の者は増えている。図書館で借りるより、好みの本を購入して読書している生徒が多いようだ。10月から始めた出張図書室コーナーは、本を借りたり立ち止まって新着図書を読んだりしている生徒がおり、概ね好評のようである。
			⑳ 全校読書会の参加者を昨年度より増やす。(平成28年度参加者25名)	⑳ 全校読書会(ビブリオバトル大会)は24名、読み聞かせの会は25名の参加であった。	
			㉑ 家庭での平均読書時間10分以上の者を45%以上にする。(平成28年度40%)	㉑ 家庭での平均読書時間10分以上の者は47%であった。	
			㉒ 図書館の利用人数を昨年度より増やす。(平成28年度1日平均利用者数31.0人)	㉒ 図書館の1日平均利用人数は23.3人であった。	
		図書課 国語科	㉓ 図書館の本の貸出を昨年度より増やす。(平成28年度1日平均貸出数8.4冊)	㉓ 図書館の1日平均貸出冊数は6.9冊であった。	
			㉔ 読書感想文や各種コンクールの出品数や入賞者を昨年度より増やす。(平成28年度各種コンクール入賞者8名)	㉔ 読書感想文コンクールでは県特選に1名、入選に5名選ばれた。新聞感想文コンクールでは、優秀学校賞を受賞し、優秀賞、優良賞に各1名選ばれた。	
		図書課	活動計画	活動計画の実施状況	
			⑳ 全校読書会や読み聞かせの会の実施案内を周知して、積極的な参加を促す。参加した生徒が次回も参加したいと思えるような企画にする。	⑳ 全校読書会はビブリオバトル校内大会を実施した。自身の推薦図書を紹介しながら参加者同士のコミュニケーションが図られていた。読み聞かせの会は、また参加したいという生徒が多かった。	
			㉑ 「朝の読書」の取り組みを十分に生かし、家庭での読書時間を増やしていく。学級文庫の活用や図書室の本をテーマ別に紹介して、読書へ誘う。	㉑ 朝の読書をきっかけに家庭での読書を定着させていきたいのだが、読書においても二極化が起こっている。全く読まないという者がいる一方、1時間以上読書するという生徒も20%いる。	
			㉒ 授業での図書館利用を増やしたり、作家やジャンル別の企画展を実施して来館者を増やしていく。	㉒ 調べ物学習等で図書館が授業に活用されている。様々な企画で本を展示した。	
図書課 国語科	㉓ 教科・科目と関連した本を案内したり、推薦本を紹介したりして興味・関心を持たせ、貸出冊数の増加につなげていく。	㉓ 毎月発行の名高ライブラリーで、新着図書を案内したり、おすすめの1冊を紹介したりして図書館へ誘った。			
	㉔ 各種コンクールの案内を周知し、授業や部活動で作品を創作する時間を取るようになる。	㉔ 国語表現や現代文の授業で作品を作り、「漢字創作コンテスト」等に出品した。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策					
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見					
活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	特別活動課	<p>評価指標</p> <p>① 自主的にボランティア活動を行った生徒が、全校生徒の70%以上だったか。(H28.70%)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① ボランティアとして、とくしまマラソンへの参加。清掃奉仕活動、名高パトロール、石井町ボランティアフェスティバル・人権集会・施設等への演奏会・作品展示など多岐にわたり参加したが、延べ数は55%となった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>前年度は徳島マラソンが2回あり、参加者数も大幅に増加したが、今年度は70%まで伸ばすことができなかった。参加者のボランティア活動への意識は高まった。</p>	○これまでどおりに留まることなく、自らアンテナを張り自発的・積極的な参加を促したい。				
		特別活動課	<p>活動計画</p> <p>① 全校生に趣旨の徹底をはかるとともに自発的なとりくみを推進する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① ボランティアへの参加についてはホームルームや各集会等において発信し、とりくみには自発的な行動がみられた。</p>						
		芸術科	<p>評価指標</p> <p>② 校内展示を通して豊かな感性の伸長を図り、情操教育を展開することができたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>② 校内に美術・書道作品を展示することで、身近に芸術を感じ、生徒一人ひとりの豊かな感性を育むことができた。</p>			<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>美術・書道の様々な分野の作品を、展示場所・安全性を考慮しながら展示したい。</p>	○作品の練度や展示方法等を改善しながら、本校の特色あふれる表現活動を実践する。		
		芸術科	<p>活動計画</p> <p>② 県内唯一の芸術科を持つ学校としてその有利性を発揮し、美術・書道の常設展示を行い、年3回展示替えを行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>② 校内における美術・書道の常設展示では、年8回展示替えを行った。大作や立体作品などを展示し、校内で芸術を身近に感じる環境を整えた。</p>						
		特別活動課	<p>評価指標</p> <p>③ 全国大会に5名以上、四国大会に18名以上の出場を目標とする。(H28.全国5名、四国16名)</p> <p>④ 高文祭では全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについては全国規模の入賞・入選数35を目標とする。(H28.入選34)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>③ 全国大会に6名、四国大会に19名が出場し、目標を上回ることができた。</p> <p>④ 高文祭においては、美術・書道・吟詠剣詩舞が全国へ。全国規模の入賞も書道を中心に入賞・入選数は61となった。</p>					<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>生徒が活動できるよう、指導を継続して欲しい。地域の活性化のためにも大きな効果が期待できる。</p>	○次年度は、生徒数が減になるが、部活動数や入部率を減らすことなく、アピールの方法や部活動の魅力をそれぞれの部から自発的に発信し続ける。
		特別活動課	<p>活動計画</p> <p>③ 体育部の活動者数を増やし、大会参加や活動の機会を増し、粘り強く指導する。</p> <p>④ 文化部の活動者数を増やし、大会参加や活動の機会を増し、粘り強く指導する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>③ 体育部の入部率は前年と変わらず33%であるが、複数の部が全国大会・四国大会に出場した。また県ベスト4など成果が出ている。</p> <p>④ 写真部の部員増加や、普通科美術部の高文祭交流会参加など、部活動の活性化が見られた。</p>						

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見
活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活気ある部活動と学校をリードする生徒の育成	国際課 英語科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 海外からの訪問がなかったため、直接海外の高校生とふれあう機会は持てなかった。しかし、ALTによる授業や、課外での英会話講座を通して、国際理解を深めた。ドイツ研修旅行では、「グローバルスタンダード人材育成事業」の経費のおかげで、生徒の負担を軽くすることができた。国際理解教育講演会では、異文化を受け入れることについて学び、生徒の国際理解と人権意識が深まったことが感想文からうかがえた。
			⑤ 外国の文化・慣習等に興味・関心を持ち、国際交流への意識を高めた生徒の割合を65%以上にする。(H28:60.3%)	⑤ 全校生徒対象のアンケートで、63.2%の生徒が国際交流への意識を高めたと答え、昨年より数値は上がったものの、目標は達成されなかった。	
			⑥ 生徒の国際理解を深めるために、全校生徒対象の講演会を1回以上開催する。(H28:1回)	⑥ 全校生徒対象の講演会を1回開催し、目標は達成された。	
		⑦ ドイツ研修旅行への参加者を13名以上にする。(H27:13名)	⑦ ドイツ研修旅行の参加者は10名で、目標は達成できなかった。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		⑤ ALTの授業を全クラス最低2週間に1回は行う。	⑤ 学期ごとにティームティーチングの計画を立て、急な出張の際にも振替を行った。昼休みや夏休みにALTによる英会話の講座を10回以上実施した。		
⑥ 外国の方や海外経験の豊富な日本人を招き講演会を実施する。	⑥ 台湾出身のヤン・シンランさんを講師に迎え、国際理解教育講演会を実施した。「コミュニケーションの先にあるもの」という演題で講演いただき、生徒の興味・関心や理解をさらに深めることができた。				
⑦ ドイツ研修旅行が成功するよう、参加者全員への事前指導を5回以上行う。	⑦ 研修旅行参加者への事前指導として、説明会5回、レポート3回、英会話(希望者)5回以上行った。				

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針		
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	総務課	<p>評価指標</p> <p>① 保護者と生徒、教職員が協力して校外清掃奉仕活動や、校内美化活動ができたか。</p> <p>② 文化祭・体育祭に、P T A役員を中心として、多くの参加者があったか。</p> <p>③ 校外における各種研修、大学訪問研修に多くの参加者があったか。</p> <p>④ 全会員にP T Aの活動についての報告・広報を年間5回以上できたか。</p> <p>⑤ 藤花同窓会と学校が連携して充実した同窓会活動が実施できたか。藤花同窓会の活動について、在校生や地域に周知・広報し、総会・懇親会に多くの参加者があったか。(H 2 8年度総会15名・懇親会105名参加)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① P T A役員、会員、総務課員が協力して清掃奉仕活動に参加できた。</p> <p>② 事前の周知を徹底し、役員会を開催し、多数のP T A役員や会員が名高祭に参加でき、円滑な運営をサポートできた。</p> <p>③ 校外、県内外の高P連・生指協等関連の各種研修に役員を中心として参加し、諸問題について理解を深めた。</p> <p>④ 行事についての報告は随時HP上に掲載し、P T A通信・校誌でも報告した。</p> <p>⑤ 同窓会役員会・総会等で校外での生徒の諸活動をご案内、ご報告することで、全国大会への生徒出場に対する激励金などのご支援を同窓会からいただいた。連携してご理解・ご協力をいただいた。(総会出席者24名、懇親会出席者88名)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) P T A・同窓会とともに、会長・役員を中心として、学校や教職員・地域と連携を深め、校内での諸活動に積極的に取り組んでいただいた。役員と一般会員が協力し、教職員と一体となって、計画的かつ組織的に活動できている。</p>	特になし	○地域社会と連携し、開かれた学校づくりのために、P T A・同窓会の活動がその土台となれるよう、さまざまな行事や事業にきめ細やかに取り組んでいきたい。役員会・総会を含め、HPなどを活用することで、ご案内や活動報告を積極的に発信していきたい。
		総務課	<p>活動計画</p> <p>① 石井駅周辺の通学路、および校内での美化活動に、参加を呼びかける。(H 2 8年度参加者4名)</p> <p>② 文化祭での模擬店出店、体育祭での麦茶提供について、全保護者に参加を呼びかける。(H 2 8年度模擬店・麦茶提供延べ30名参加)</p> <p>③ 県高P連、生指協連絡協議会等の総会・研修会等への参加について適宜ご案内する。また、大学訪問を実施し、進路について理解を深める。(H 2 8年度校外研修19名参加、大学訪問18名参加)</p> <p>④ 5月の総会で事業報告・事業計画を提案する。「P T A通信」を発行し、年間の活動について全会員に報告をする。HPに行事への参加案内や報告を掲載する。</p> <p>⑤ 9月の藤花同窓会総会・懇親会では役員および卒業30周年の会員を中心にHPに掲載して参加を広く呼びかける。諸活動の円滑な実施のため、役員会を年4回開催する。同窓会キャラクターの「くおんちゃん」クリアファイルを制作し、広く配布して同窓会のシンボルとして周知を図る。卒業式前日に同窓会入会式を実施し、各クラス理事に委嘱状を手渡し、同窓会会員となる自覚を促す。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 2学期末にP T A役員が校外清掃奉仕活動に参加できた。(参加者5名)</p> <p>② ご案内を三者面談で全会員に手渡しし、周知徹底することで、多数の役員・会員が、文化祭での模擬店の運営、体育祭でのドリンク提供サービスに参加できた。(模擬店・麦茶提供延べ55名参加)</p> <p>③ 県高P連、生指協関係等の研修会等に参加した。高P連中四国大会には役員1名が参加し、7月大学訪問は武庫川女子大学を訪問し、進路について理解を深めた。(校外研修30名、大学訪問15名参加)</p> <p>④ ご案内は全会員に配布し、報告は随時HPに掲載した(計6回)。前年度の事業報告、本年度の事業計画等については5月総会で行った。年間の活動報告は「P T A通信」16号や校誌で行った。</p> <p>⑤ 9月の総会・懇親会は台風で延期され、改めて1月に総会と第38回卒業生と合同の懇親会を開催した。全国大会出場に対する激励金(25名)や演奏会・展示会へのご支援(5会場)を同窓会からいただいた。くおんちゃんクリアファイルを制作し、同窓会のシンボルとして周知を図れた。入会式では役員12名から各クラス理事に委嘱状を手渡し卒業生に同窓生としての自覚を促した。</p>			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	教務課	<p>評価指標</p> <p>⑥ 「入学案内」について、本校教育の内容を、わかりやすい特色にまとめ上げ、説明会等の資料にも活用することができたか。</p> <p>⑦ 体験入学の参加生徒や保護者に、本校教育の内容やその説明が理解されたか。H28体験入学アンケート結果（よい以上-生徒89%、教員・保護者96%）を上昇させる。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑥ 入学案内は昨年度のをベースに、作成した。今年度も卒業生の声、在校生の声も取り入れ、中学校での説明会の際、その生徒の出身中学校でも、好評であった。</p> <p>⑦ 本年度も、生徒主体のオリエンテーションを実施した。H29体験入学アンケート結果（よい以上-生徒91% 教員・保護者-81%）であった。（普通以上-生徒98%、教員・保護者-93%）であった。</p>	総合評価 (評定) B (所見) 目標はほぼ達成できた。次年度も積極的に広報活動を実践していきたい。	現在の「入学案内」には、進路実績を数値で入れているが、周囲からの実績への関心は高い。次年度は進路実績の数値を上げて本校の成果をわかりやすく伝えるとともに、日々の取り組みへの意識付けの一つとして欲しい。	
		教務課	<p>活動計画</p> <p>⑥ 「入学案内」の構成や情報内容を改良する。美術科の生徒にレイアウト等の案の作成を依頼する。</p> <p>⑦ 体験入学、学校説明会、HP等を通じて、本校教育の特色など本校に関する情報を提供し、中学生に進路選択に活用してもらう。体験入学の際にアンケートを実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑥ 生徒の写真撮影等も教員で行った。掲載する生徒の出身中学校のバランスも検討した。</p> <p>⑦ 体験入学や、中学校での学校説明会等に、ハローポイントを使用して、本校の活動を視覚的に紹介した。説明会資料などを入れるクリアファイルも新調して配付し、広報活動に努めた。</p>			
		情報視聴覚課	<p>評価指標</p> <p>⑧ 学校行事や部活動等の様々な取組みをホームページで頻度多く掲載する。月に12回以上の更新を行う。（昨年度最少月更新回数10回）</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑧ 主立った行事や外部で行う催事の案内は紹介できている。更新回数に関しては達成できていない月がある。（最小更新回数10回）対外活動の記録等をこまめに更新することで回数を増加させたい。</p>	総合評価 (評定) B (所見) 保護者アンケートからのWEB掲載のニーズがあることから、早めの更新を心掛けたい。		○体験入学の広報活動について、取り組みを早める。 ○アンケートを改善する。 ○入学案内について、改良を重ねる。 ○保護者や地域に発信すべき情報を確実にするため、さらに情報発信できる教員の数を増やす。 ○芸術科の活動や取り組みを、地域社会に発信するために、広報活動の強化を目指す。
		情報視聴覚課	<p>活動計画</p> <p>⑧ 各課に更新作業の出来る教員を増やし、学校行事や部活動の取り組み等を紹介する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑧ 芸術科や部活動等については頻繁に更新されている。ネットコモンズによる情報発信が出来る教員も増えていることなど発信するための環境も整ってきている。</p>			
		芸術科	<p>評価指標</p> <p>⑨ 校外での展覧会・音楽会等の広報活動を行い、多くの観客を動員をすることができたか。</p> <p>⑩ 県内唯一の芸術科を有する学校として、地域社会と連携し芸術・文化の発信に寄与する事ができたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑨ 校外での展覧会や演奏会に多くの来場者を動員できるよう、ポスター等の作成をはじめとする広報活動を、早期に開始した。</p> <p>⑩ 役場や公民館、老健施設に出向き、生徒の技術力をいかした取り組みを実践・発表し、地域との連携を密にした。</p>	総合評価 (評定) B (所見) 小学生や中学生、地域の人々との交流をとおして、生徒も学び成長できた。さらに芸術科の広報活動を積極的に実践したい。		
		芸術科	<p>活動計画</p> <p>⑨ 地域社会での文化祭、展覧会、文化行事などに積極的に参加する。年間5回以上行う。</p> <p>⑩ 地域社会と連携し、校内・校外で合同展覧会・合同演奏会を年間5回行う。中学生に向けた実習体験を年間6回行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑨ 石井町ボランティアフェスティバル・人權集会・施設等への作品展示や演奏会をとおして、交流を年間10回実施した。また、大型量販店で作品展示や書道パフォーマンスを実施し、芸術科を校外にアピールできた。</p> <p>⑩ 地域社会と連携した校内外での展覧会や演奏会を年間5回以上実施した。小学生や中学生との体験学習も6回実施した。</p>			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	生徒指導課	<p>評価指標</p> <p>⑪ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全や美化活動を年20回以上実施できたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑪ 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど20回以上意欲的に活動した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 交通安全キャンペーンの実施や運動部員がキャップをかぶり、学校周辺のランニングを行いながら名高パトロールをするなど、地域の安全に貢献することができた。生徒に社会の一員である自覚を育てるとともに、地元から信頼される学校となるためにも活動を継続・発展させていきたい。</p>	<p>学校独自の取り組みとして「名高パトロール隊」は15年目であるとのこと。過去に表彰されたこともある、有意義な取り組みである。「無事カエル」配布運動等と合わせて、地域の活性化に大いに貢献している。今後も継続して取り組んで欲しい。</p> <p>○県内でも名西高校独自の取組ともいえる名高パトロール隊の活動をさらに充実させ、地域から信頼される学校にしていきたい。 ○30年継続して作成されている「無事カエル」の意義を浸透させ、製作に対しての意識を向上させたい。</p>
		生徒指導課 家庭科	<p>⑫ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献することができたか。</p>	<p>⑫ 春と秋の全国交通安全運動期間に石井署と連携して、街頭キャンペーンを実施した。秋の運動では家庭クラブが作成したマスコット(無事カエル)をドライバーに配布する街頭キャンペーンを実施した。また、3学期にはスマホ使用運転撲滅のキャンペーンを実施できた。</p>		
		生徒指導課	<p>活動計画</p> <p>⑪ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動を適宜実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑫ 石井署や青少年育成センターと連携を図りながら、清掃活動や部活動時のパトロール、校門前での挨拶運動など様々な取組を実施した。</p>		
		生徒指導課 家庭科	<p>⑫ 石井署と連携を図り、交通委員会がキャンペーンを実施する。また秋の交通安全キャンペーンでは学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。</p>	<p>⑫ 石井署や交通安全協会と連携を図り、秋の交通安全運動キャンペーンに参加し、家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパンフレットと一緒に配布した。</p>		

重点課題		自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見			
文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	⑦文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	情報視聴覚課	<u>評価指標</u> ① 各行事の結果等については、実施日から3日以内の更新を心掛ける。生徒の活動の様子等の紹介を月3回程度を目標に更新する。(平成28年度最少月更新数2回)	<u>評価指標の達成度</u> ① 行事の実行から掲載まで3日以内の更新はほぼ達成できた。月3回以上の更新も達成できたが、トータルの更新が少ない月があった。(最小更新回数10回)	総合評価 (評定) B	石井町との連携を図り、音楽では役場でのミニコンサートを実施、書道では石井中学校で書道パフォーマンスを実施、美術では高川原小学校でのウォールアート作成などを行っているとのこと。名西高校をアピールするとともに、地元を大切にするという本校の姿勢が素晴らしい。	○年間を通し、情報発信計画を立てて更新回数を1割を目標に増加させる。	
		情報視聴覚課	<u>活動計画</u> ① 行事の記録を確実にし、タイムラグなく地域に発信を行う。	<u>活動計画の実施状況</u> ① 学校生活等についてはよく更新できているが、部活動の更新が滞っているものがある。				(所見) Web発信できる教員や部活動に関しては部員の育成が必要である。
		芸術科	<u>評価指標</u> ② リーディングハイスクールの取り組みを通して、音楽・美術・書道の活動を積極的に校外・地域へ発信することができたか。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、ホームページをはじめとするさまざまな機会を通じて効果的に案内・広報を行うことができたか。	<u>評価指標の達成度</u> ② 音楽・美術・書道の生徒の技術力をいかした活動を、小学生や中学生、地域の人々へ発信することができた。 ③ ホームページに芸術科の各行事や取り組み、展覧会やコンクール等の実績を30回以上更新できた。	総合評価 (評定) B			○リーディングハイスクールによる取り組みで、芸術科のさらなる活動の充実と実績向上を図りたい。
		芸術科	<u>活動計画</u> ② 校内での演奏や作品展示をはじめ、校外での演奏会や作品展を行いアピールする。定期的な演奏会や作品展についても、その内容に改善・工夫をする。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、ホームページをはじめとするさまざまな機会を通じて効果的に案内・広報を行う。	<u>活動計画の実施状況</u> ② 校内での音楽演奏や美術・書道の作品展示をより充実させた。また、地域における活動として、ミニコンサートや作品展示を10回(町内7回・町外3回)実施した。 ③ ホームページで、県内5カ所での巡回展の様子や予告などを毎回更新した。音楽の定期演奏会などのポスター制作に生徒の芸術力をいかし取り組んだ。				

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	⑧防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	環境教育課	<p>評価指標</p> <p>① 避難訓練を年2回実施したか。</p> <p>② 外部機関と連携した防災教育を実施したか。</p> <p>③ 防災クラブの活動が十分に行えたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 5月、12月に2回実施できた。</p> <p>② 地域の消防署と連携して火災避難訓練を実施できた。</p> <p>③ 防災クラブとしての活動は十分には行えなかった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 防災・安全についての意識は高く、避難訓練等の取り組みも前向きであると感じる。防災クラブの取り組みが残念ながらあまり行えなかった。</p>	<p>本校は石井町役場と石井中学校に隣接しており、地震などの大きな災害が発生した場合は、これらの施設との連携が欠かせない。今後は避難訓練を地域や石井中学校と連携して行うことを考えているとのこと。そのため、日頃から顔の見える関係を作っておくことが大事である。ぜひとも、次年度に計画を実行して欲しい。</p>	
			<p>活動計画</p> <p>① 緊急時に適切な行動がとれるようにするため、地震・火災を想定した避難訓練を実施する。</p> <p>② 安全確保に対する意識を高めるため、防災教育を充実させる。</p> <p>③ 防災クラブの活動として、1・2学期末に防災活動を積極的に行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 生徒たちの取り組みはとてもよかったと思う。校舎外への避難、消火、シューター避難の訓練ともに有効であったと思う。</p> <p>② 安全に対する意識は高いと感じる。</p> <p>③ 十分な活動は行えなかった。</p>			
			<p>評価指標</p> <p>④ ゴミの分別をすることがECOにつながることを自覚させることができたか。</p> <p>⑤ 環境を整え学習効果をあげるとともに、美化を推進することができたか。</p> <p>⑥ 地域の美化に貢献する気持ちを育て、奉仕の精神を養うことができたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>④ 文化祭なども通じて、呼びかけやポスター掲示で自覚につながる活動を実施した。</p> <p>⑤ 清掃は全教職員、生徒とも積極的に取り組み、よい環境で学習活動ができています。</p> <p>⑥ 1学期末、2学期末に地域の清掃奉仕活動を実施。環境整備委員、生徒会役員を中心に積極的に参加した。</p>			<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) ほぼ予定通り実施できたが、ゴミの分別チェック表の活用が十分でなかったので改善したい。</p>
			<p>活動計画</p> <p>④ ゴミ分別チェック表を毎月1回提出する。</p> <p>⑤ 月に1回大掃除を実施する。</p> <p>⑥ 1, 2学期末に校外奉仕活動を積極的に行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>④ チェック表の利用が十分に行えなかった。</p> <p>⑤ 大掃除は月1回以上の割合で実施できた。</p> <p>⑥ 予定通り実施できた。</p>			